

【研究主題】及び【開発するプログラムの概要】

現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通じて、主権者として必要な資質・能力を育むための教科等横断的な学習プログラム（育成を目指す資質・能力をベースに整理した主権者教育の全体計画）及び新科目「公共」の単元計画の開発
～公民科及び学校設定科目「じもと学」を中核とする、地域と連携した主権者教育の実践～

実践内容 ※開発するプログラムから一部抜粋

<高等学校・1年生> 公民科（公共）

【単元名】主として経済に関わる事項（Bアウ）(I), イ

【主な単元の目標】職業選択、雇用と労働問題などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られることを理解する。

【学習課題】2050年の日本を担うのはどのような産業か

時間	主な学習内容	
	公民科（公共）	関連付けた他教科等
1/2	職業選択Ⅰ	総合的な探究の時間 じもと学(学校設定科目)
3/4	雇用と労働問題	総合的な探究の時間 じもと学(学校設定科目)
5/6	財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化	家庭科 じもと学(学校設定科目)
7/8	市場経済の機能と限界	
9-11	金融の働き	家庭科
12/13	経済のグローバル化と相互依存の深まり	
14/15	職業選択Ⅱ ※本時(単元のまとめ)	総合的な探究の時間 じもと学(学校設定科目)

※単元名の（ ）内は学習指導要領の内容の該当番号

【実践例】公民科（公共）「職業選択Ⅱ」第14・15/15時

授業の概要

<概要>

- ・人口減少や労働力不足についての基本的な理解に基づき、登別の産業において活用できるAI等の技術について、グローバル化や持続可能な社会などの観点から評価し、登別の産業を発展させるための視点を身に付ける。
- ・単元の初回の授業で考察した「2050年の日本を担う産業」について、これまでの学習で身に付けた知識や視点を活用して主体的に振り返る。

<指導上の工夫>

○地域や社会生活における具体的な課題等を自分との関わりの中で捉えられるようにするための指導上の工夫

- ・「RESAS」（地域経済分析システム）を活用して地域の産業別労働人口や、売上額等のデータを収集し、年代別の推移について考察した（右上の上の画像）。
- ・考察結果から、地域の将来を担う産業について、「地元らしさ」、「グローバル化への対応」、「持続可能性」の3つの視点を基に見通しを立てた。
- ・生徒が立てた産業に対する見通しについて、登別市役所職員（各産業の担当者）5名からそれぞれ助言を得た（右上の下の画像）。
- ・最後に単元の基軸となる問いについて、生徒が再び考察・表現した。

○公民科と他教科等との連携

- ・「総合的な探究の時間」で実施した地域研修での学習成果を活用。
- ・「公共」で身に付けた知識等を「じもと学」（学校設定科目）で活用し探究。

専門家や関係諸機関等との連携・協働

- 「職業選択Ⅱ」における登別市役所職員との連携（講師として招へい）
- ・授業の冒頭において、地域の現状や課題等について講義
 - ・生徒が学習課題を基に協議する場面において、考察の視点について助言
 - ・授業のまとめにおいて、今後の地域課題の探究に係る展望などについて助言

効果等

生徒アンケートの結果（R3）

- ・「将来、政策決定など積極的に政治に参加したい」50.9%→61.1%(+10.2)
- ・「選挙権が与えられたら投票に行こうと思う」79.5%→87.7% (+8.2)

